



# DOUGLAS BOSTOCK

ダグラス・ボストック  
指揮者

ダグラス・ボストックは、現在スイスのアールガウ・シンフォニー・オーケストラの常任指揮者として、また1992年より世界的に有名なチェコ・チェンバー・フィルハーモニックの首席客演指揮者として、ヨーロッパ、アメリカ、日本を中心に幅広く活動を続けている。2000年から2006年までの間、東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者として高い評価を得、現在はこの楽団初となる首席客演指揮者として活動している。オペラの分野でも活躍の幅を広げ、スイスのハルウィル・オペラ音楽祭の音楽監督も務めている。

彼は1991年から1998年までの間、チェコを代表するオーケストラの一つであるカールスバッド・シンフォニー・オーケストラの音楽監督及び常任指揮者を務めた。彼のリーダーシップにより、この楽団はチェコ内外において著しい評価を得るに至った。

ダグラス・ボストックは独特のスタイルを持つ指揮者として人気を博し、カール・ニールセンのオーケストラ作品においては偉大かつ、先駆的コミュニケーターとしての地位を確立している。更にイギリス及びチェコ音楽においては、その幅広いレパートリーと解釈により特別の評価を得ている。彼は現在ドイツに活動の拠点を置いているが、BBCシンフォニー、BBCフィルハーモニー、BBCナショナル・オーケストラ・オブ・ウェールズ、ロンドン・フィルハーモニック、ロイヤル・リバプール・フィルハーモニー、ロイヤル・フィルハーモニック、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル・オーケストラなど、イギリスの楽団で客演をしている。またチェコ、ドイツ、スイス、デンマークなどヨーロッパ主要国のオーケストラでも定期的に共演を行っている。北アメリカにおいては、カンザスシティ・シンフォニー、ナショナル・チェンバー・オーケストラ、コロラド・フェスティヴァル・オーケストラ、シカゴ・チェンバー・オーケストラ、キックナー・ウォータールー・シンフォニー・オーケストラ、カルガリー・シンフォニー、そしてメキシコではメキシコ・ステート・シンフォニー・オーケストラなどでも活動を行っている。日本では東京シティ・フィル、神奈川フィル、群馬交響楽団などで客演指揮を行っている。

後進の育成にも力を注ぎ、英国王立北音楽院、デンマーク王立アカデミー、チューリッヒ音楽学校、東京芸術大学など、ヨーロッパ、アジア各地の大学において教鞭をとっている。

彼はレコーディング・アーティストとしても多くの成果を残しており、全ての音楽スタイルに対する豊富な専門的知識を活かし、多くの未発掘作品、未録音作品を含む70を超えるCDに名前を連ねている。クラシコ・レーベルにおける彼の代表的な録音である、カール・ニールセン、ロバート・シューマンの一連の交響曲集は国際的に高い評価を得ている。また同レーベルにて現在進行中のもう一つの録音プロジェクト、「ブリティッシュ・シンフォニック・コレクション」は、世界中の評論家、音楽ファンの注目を集めている。